

今の自分にできること

中 三

親から生まれて、親に育ててもらい、今こうして一人の人間として生きている。今こうしてここに存在している。みんなは、それを幸せだと感じているだろうか。

私がこういうことを考えるようになったきっかけは、母と見ていた夕方のテレビ番組だった。「虐待されている子どもたち」というテーマで、親から暴力を受けて養護施設に入所している子供たちにインタビューをしていた。虐待されていたので、体中に傷などがあつた。激しい暴力を受けたり、ご飯を食べさせてもらえなかったり、中には命を落としてしまつたりと、耳をふさぎたくなるような現実があるということを知らされた。

「きつとお母さんは、僕が嫌いだったんだよ。言うことを聞かなかつたから。」

普段親に反抗的な態度をとつてしまう私にとってこの言葉は深く心にひびいた。その子と自分は、

まったく関係のないものとは思えなくなつてしまふ言葉だった。

「私がいて迷惑だと思つたことある？うるさいって思つたことある？」

私は母に聞いた。すると母は笑つて言った。

「そうだね。小さい頃、いっぱい泣いてて疲れたね。」

私はこれを聞いてとても申しわけなくなつた。

「でも、お母さんになるつてそういうことだから。

言うことを聞かないからつて逃げるのは、母親

失格だよ。そんなことするんだつたら、最初から親にならないでほしいよね。」

私はお母さんつて立場ではないけれど、とても共

感し、感謝の気持ちでいっぱいになつた。

「そうだよね。ありがとう。」

自然にこう言えた。

夏休みの宿題で新聞を読む機会があつた。毎日、新聞を見ていると、小さい記事だが、親の虐待で子供が亡くなつたという記事が多いことに気が付いた。それらの記事を見ると「子供が言うことを聞かなかつたから。」「しついでやつた。」と書かれていた。虐待をされた子供は、人を信じなくなつ

たり、人に反抗的な態度をとったりする。だからしつけと言っても意味がないのだと考えられる。親はそれをわかっていないはずなのだ。では、なぜ虐待をするのか。結局は自分のためなのだ。自分の都合、自分の気分で子供を傷付ける。それだつたら母が言っていたように、最初から親にならないでほしいと思った。そして同時に親になることの大変さを感じた。

テレビを見たり、新聞を読んだりすると、ふと虐待について考えさせられる瞬間がある。それをかき消してしまうのは簡単だが、深く考え自分に行えることはないかと考えることも難しくないはずだ。「かわいそうに。」「大変だろうな。」と同情するのではなく、親が自分を生んでくれたことに感謝したり、限りある命を大切にしたりすることが大切なことなのではないだろうか。直接関わることは難しいかもしれないが、感謝はできると思う。

私が将来親になって子供ができたら、自分も子供も幸せでありたいと思う。そのためには、子供の気持ちを理解し、わかってあげることが一番だ

と思う。でも、自分が親になったとき、それを実行できるか、本当に子供の気持ちを優先に考えられるかと言われると、悩んでしまう自分がいる。それは、私だけではないはずだ。だからこそ、未来の自分に呼びかけたい。中学生のときに私が感じたことを思い出してほしい、と。「命の大切さ」「親子になれたことへの感謝の気持ち」そして、同じ悩みをもつ人と話し合ったり、相談したりして、冷静になること。この思いは自分だけではなく、自分の子供にもまた、次の世代にもつなげられたらいいと思う。

そんな一人一人の小さな思いから、虐待のない誰もが幸せな世界になっていくことを願っている。